



こくろうよなご

第3号

2024年10月25日

発行責任者 倉下文明

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！



三江線廃止で地域はどうなった

美郷町役場を訪問

9月24日、美郷町を訪問し、国労議員団の植田江津市議も交えて、「三江線廃止後の地域公共交通の現状や課題」などについて意見交換を行ってきました。

バスの運行費用は？

支出されているという事でした。

三江線が廃線となり6年半が経過をしますが、鉄道に変わる代替え交通であるバスの本数は廃線当時と変わらず一日7便程度が運行しているとのことでした。廃線当時、代替え交通の運行費用という事でJRから関係自治体にお金が渡されていたのですが、使用道についてはバスの購入などの初期費用に充てられ、残りのお金は老朽による車両交換の費用として貯蓄に回っており、日常のランニングコストはすべて自治体から

また、廃線跡地の荒廃が新聞紙上などでも取り上げられていますが、昨年よりJRから協力を貰って地元住民の皆さんが除草などに精を出されているという事でした。

但し、協力金の額については、人件費まで賄えるものではないという事でした。それまでも、JRに要請しても手つかずであるため、ほっておくことも出来ず地元住民の方がやむなく行っておられたという事で、自治体がJRと協議する中で協力金という形になったようです。

一方、江津市など美郷町以外の旧沿線自治体では、今もって地元住民の方の善意におんぶにだっこで、草が伸び放題の地域も多いという話もありました。

労働組合の宿題

現在、バスの運転手不足が全国的に問題と

なっています。

美郷町においても休日のバスの運転を取りやめるとのバス会社からの提案があり、協議の末便数を減らしての運転となったそうです。が、こういう事では高齢者の皆さんもとても安心して免許の返上なども出来ないと感じました。

また、自治体としても高齢者を対象にバス停までのタクシーの無料送迎なども取り組まれているようでしたが、地域住民の移動手段の確保は、自治体財政の

大きな負担にもなっていると感じました。自治体を訪れる前に少し時間があつたので、既使用されていない粕淵駅・浜原駅の見学に行きました。

電気と健康が天秤に！？

9月14日、平和フォーラム鳥取の呼びかけで、日本海新聞社にて開催された「子供たちの健康と低線量被ばく」の学習会に参加しました。

原子力発電所で電気を作る過程で作られる放射性物質の一つに「ヨウ素」があります。2011年に発生した福島原発事故にみられるように原発で重大事故が起こると放射性物質が原子炉の外へと拡散されることになり、そのうちのひとつである「放射性ヨウ素」は、水道水や空気に入り込むため、食べ物や

呼吸を通して体内に侵入してきます。このように体内に放射性ヨウ素を取り込んだ場合、○もともと甲状腺にヨウ素が十分あれば取り込まれにくく、○甲状腺がんになりにくく、○甲状腺がヨウ素不足だと放射性ヨウ素が取り込まれ、甲状腺組織が被ばくし癌になりうる、このヨウ素

に感銘を受けると同時に、住民の皆さんの努力だけではどうにもならない現実をどう考えるのか、私達労働組合に課せられた宿題です。

粕淵駅では、駅からトンネルまでの線路を歩道に改良され、街灯なども設置してありました。後から聞くとどうやらトンネルを使うたカフェを作ろうとされたようですが、衛生管理上断念され、現在ワインの醸造庫に出来ないか思案されているとのことでした。

人口減少が進み、セーティネットも先細る中で、町おこしに懸命に努力をされている姿

と、何に含まれているのかという点も、昆布だとも過剰摂取気味ではあるそうですが、不足していた場合についても「安定ヨウ素剤」を服用すれば、放射性ヨウ素が甲状腺に取り込まれず、甲状腺癌発症の危険性が減るとのことでした。

また、甲状腺で甲状腺ホルモンが作られるわけですが、このホルモンの働きは○体の発育を促進し、新陳代謝を盛んにする○多すぎても少なすぎても体調が悪くなるが、体内で自然に調和がされるな

どの特徴があり、万が一の時の影響が大きいのは、小さな子供や妊婦、授乳婦、40歳以下であり、この方たちに優先して「安定ヨウ素剤」を飲んでもらうことが重要だと言われていました。

会場では、「安定ヨウ素剤」の配布も行われていたもので、一人分ほど頂いて帰りました。

中国電力は12月には島根原発2号機を稼働させると言っているようですが、電気が健康が天秤にかけられているようで、なんとも言えない気持ちで帰路につきましました。

そんな簡単には出来ませんから！！

来年のダイヤ改正から、浜田運転区の運転士が出雲以東にも乗り入れをするという提案が会社からありました。

団体交渉で理由を聞いたところ、「違う目で見ることがある」というニュアンスの回答だったという事です。もともと浜田の運転士さんは、出雲以東にも乗り入れをしていたのを、福知山線事故の報告書で「出来るだけ同じ区

間を運転することが望ましい」との指摘を頂き、行路を限定したという思いですが、「ものはいいいやだな」と感じました。

先日は、本社で車両関係の業務の融合化による要員削減の提案も受けましたが、鉄道の仕事にあれもこれも出来るほど、容易なものなどないと思いついていました。ほんと、あなた一度やってみて下さい！！